

# 第49回「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール

文部科学大臣賞 作品

3年でのひら文庫部門／読んだ本・植物が旅をするとき

文部科学大臣賞

## 「植物が旅をするとき」を読んで

千葉県聖徳大学附属小学校 海保壮

ぼくは植物が大好きです。家にはガジュマルや食虫植物など、色いろな植物があつて、ぼくが毎日水をやつてそだてています。この本を見た時、「植物が旅をする」ってどういうことだろうとふしげに思つて、すぐに読んでみたくなりました。

本にはたくさんの植物のタネのことが書いてあります。ふだんは動かない植物が、タネの時だけは動いて旅をすることができると書いてあって、面白いことを言つた。ぼくはとくに動く植物がすきで、たとえばオジギソウやハエトリグサが動く所を見ると、まるでほかの生き物みたいでおもしろいと思います。でも、タネの時に「動いている」と考えたことはなかつたので、はつとさせられました。

たしかに、タンポポのわた毛はふわふわ空をとんで行くし、ホウセンカのタネは実がはじけてぴょーんと遠くまでとびます。オナモミのタネなんてズボンにくつつい

てどこまでもいどうできます。こんな風にタネたちは色んなくふうで遠くまで旅していることに気がつきました。

けれどもタネからねが生えたらもう植物は動きません。ぼくは植物が「動かない所」がちょっとさみしいなど思つていました。でも、この本を読んで、植物は動かなくともこまらないから動かないのかもと思いはじめました。

植物は動かなくても、空気や水や光からごはんをとれるし、タネをとばしたり鳥や風の力をかりたりして、自分のなかまをどんどんふやしています。もしかしたら、植物は

ぐかれてしまうと悲しくなるけれど、植物には「死んだ」という感かくがなくて、「あとはたのんだよ。がんばつてね」

とタネにバトンをわたしているだけかもしれないと思いました。まるでリレーのチームみたいに、何年、何十年もかけて、世界を植物でいっぱいにしているのかもしれません。にわのざつ草も、どちらか旅してきたタネが生えてきているのだと思うと、ちょっとにくいけれど、しぶとくてたくましいな、と思います。

友だちに、

「植物なんて、どこがおもしろいの？」

と言われたことがあります。でも、ぼくはやっぱり植物が大好きです。きれいでふしぎなだけじゃなく、タネのころからこんなにかしこくて、しつかりと生きぬいている植物たち。ぼくはこれからも、色いろな植物と出会つていいたいと思います。

それから、ぼくは植物がす